『空』に憧れた仲間たちへ

長谷川明弘

空のとても好きな男がいた。ある場所でなんとなく顔を会わしているうちに、顔見知りになりいつの間にか男には仲間の数が増えて行った。次に男は特に飛行機に興味をもった。男は一人で飛行場に出掛けるときもあれば、仲間の誰かを誘っては飛行場へ出掛けた。

そして、男は飛行場でたくさんの飛行機を見ていることが多くなった。男は飛行場で飛行機を見ている人達とも仲良くなった。そうして男を通じて、またその仲間たちを通じての交流が続いた。こうしてさらに大きな『空』の大好きな仲間たちが形成されて行った。次第に『空』の大好きな仲間たちの中でもある変化が見られた。もちろん、その中には次第に顔を見なくなるものも存在した。

これらの仲間の中には太陽や雲や星に興味をもっているもの、鳥をみているもの、空の色の変化を見ているもの、飛行機の整備士や設計者やスチュワーデスになる夢をもつもの…、etc.がいた。けれども『空』が好きで好きでたまらないことだけは共通していた。そして男は「パイロット」になりたくなった。

男はパイロットになるために今度は一人だけでその勉強をした。そうして男が『空』の大好きな仲間たちの集まる場所や飛行場へ出掛けることも少なくなって行った。こうしてさらに時間が過ぎていった。ついに男は念願のパイロットになることができた。そのことを男は仲間たちに伝えるために意気込んで久しぶりにいつもの場所へ出掛けて行った。いつもの場所ではまだ仲間たちが集まっていた。

仲間たちは久しぶりに男を見て喜び、男がパイロットになれたことを喜んでくれた。男はそこに来なくなった仲間たちの噂を聞いた。それぞれの目標を見つけて旅立ったものや消息不明のものなど男が来ないうちにも何か変化があったことを男は知った。ここに集まっている仲間たちも次第に目標をもち始めていることに男は気づいた。そして男はこれからは飛行機に乗って世界を飛び回るつもりでこの場所では会えなくなることを集まっていた仲間たちに伝えた。仲間たちはそれを聞いて寂しそうな表情を一瞬見せたが、男とは『空』を通じて、いつかどこかで会える時を期待して待っているといった。

いま男はパイロットとなって飛行機に乗っている。世界各地でかつての仲間たちと出会うことがあった。かつての仲間たちは現在は空を題材とした写真家や画家や小説家になっていたもの、鳥の飼育をしているもの、天体観測をしているもの、飛行機の整備士や設計やスチュワーデスをしているもの、男と同じくパイロットになっているもの、相変わらず空を見ているもの…、etc.がいた。

今は別々の道を歩んでいるがやはり『空』の仲間たちは空が大好きだった。

書誌情報
長谷川明弘　(1994)　4年間を振り返って：「空」に憧れた仲間たちへ　CO-знание(サ・ズナーニェ)
愛知学院大学心理科学研究会
1994年11月4日発行,51頁

愛知学院大学心理科学研究会(通称　心科研)

自主ゼミ形式で心理学を学ぼうとする心理学科の有志が集まったサークルで第2期入学生が立ち上げたようだ。伝え聞くところによれば、２００１年以降は、公認サークルとなっているようだ。

CO-знание(サ・ズナーニェ)とは、ロシア語で「共に学ぼう」という意味である。

心科研が大学祭の研究発表を行う際の研究誌として毎年発刊していた。
2011年現在は発行されているか不明である。

私が入学したときには、心科研に芸人の「つぶやきシロー」氏が3回生に在籍しておられた。CO-знание(サ・ズナーニェ)にも卒業前に書いておられる。ちなみに私とはゼミも同じで研究テーマが類似していたことを後日指導教員である酒井先生から伺った。